

「幕別町人口ビジョン」 新旧対照表

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜1 ページ＞

1 (略)

2 将来人口の推計に対する幕別町の人口推移

2016(平成 28)年 1 月に策定した「幕別町人口ビジョン」（以下、「前人口ビジョン」という。）は、2015(平成 27)年 3 月の住民基本台帳を基準人口とし、2013(平成 25)年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来人口推計（以下、「社人研推計」という。）に準拠するとともに、住民基本台帳を基にした人口動向や町民アンケート結果による希望の子ども人数などを踏まえ推計しました（図 1）。

なお、国立社会保障・人口問題研究所では、2015(平成 27)年の国勢調査の結果を踏まえた将来人口推計を 2018(平成 30)年に、公表しています。

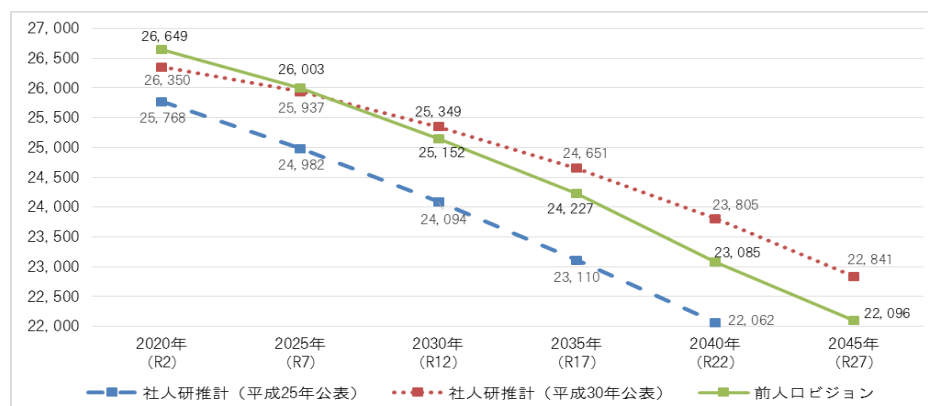


図 1 前人口ビジョン及び社人研推計

＜新＞人口ビジョン（案）

＜1 ページ＞

1 (略)

2 将来人口の推計に対する幕別町の人口推移

2016(平成28)年 1 月に策定した「幕別町人口ビジョン」（以下、「前人口ビジョン」という。）は、2015(平成27)年 3 月の住民基本台帳を基準人口とし、2013(平成25)年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来人口推計（以下、「社人研推計」という。）に準拠するとともに、住民基本台帳を基にした人口動向や町民アンケート結果による希望の子ども人数などを踏まえ推計しました(図 1)。

なお、国立社会保障・人口問題研究所では、2015(平成27)年の国勢調査の結果を踏まえた将来人口推計を 2018(平成 30)年に、2020(令和2)年の国勢調査の結果を踏まえた将来人口推計を2023(令和5)年に公表しています。

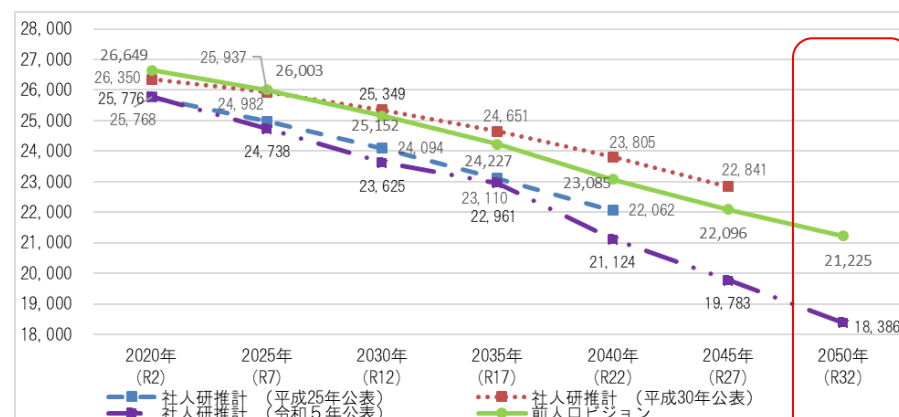


図 1 前人口ビジョン及び社人研推計

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜1 ページ＞

策定時からの前人口ビジョンと年度末時点の住民基本台帳の人口を比較すると、概ね前人口ビジョンの推計どおりとなりました（図2）。

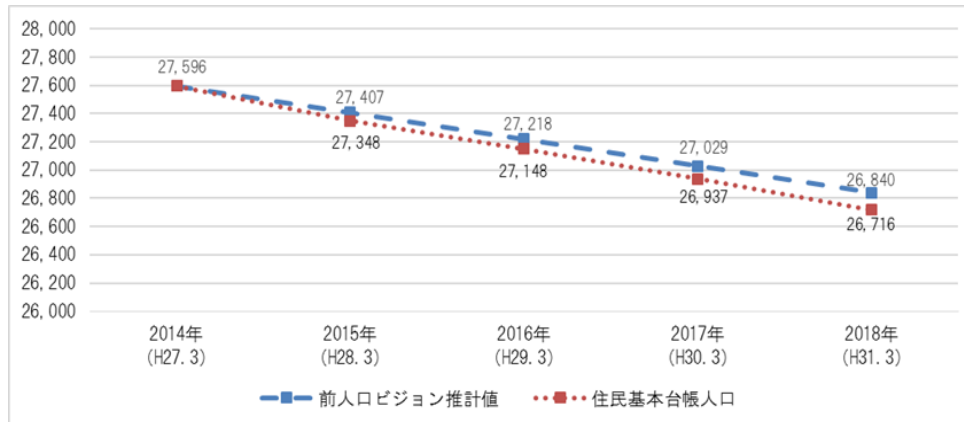


図2 策定時からの前人口ビジョン推計値と住民基本台帳人口との比較

3～5 （略）

＜2 ページ＞

6 人口ビジョンで扱う地域分類

(1) ～ (3) （略）

(4) 幕別札内農村地域

豊岡1～2、新和、西猿別、猿別、軍岡、南勢、大豊、明野北、明野南、新川、相川、相川東、相川西、相川南、相川北、糠内市街、五位、糠内第一、中糠内、西糠内、明倫、美川、中里、駒畠、古舞、途別、上稲志別、札内区、日新1～2、昭和、依田、西和、千住1～2、千住東、稲志別、新生、中稲志別

＜新＞人口ビジョン（案）

＜1 ページ＞

策定時からの前人口ビジョンと年度末時点の住民基本台帳の人口を比較すると、2024(令和6)年3月末時点では97.3%と比較的乖離が少ないものとなっております(図2)。

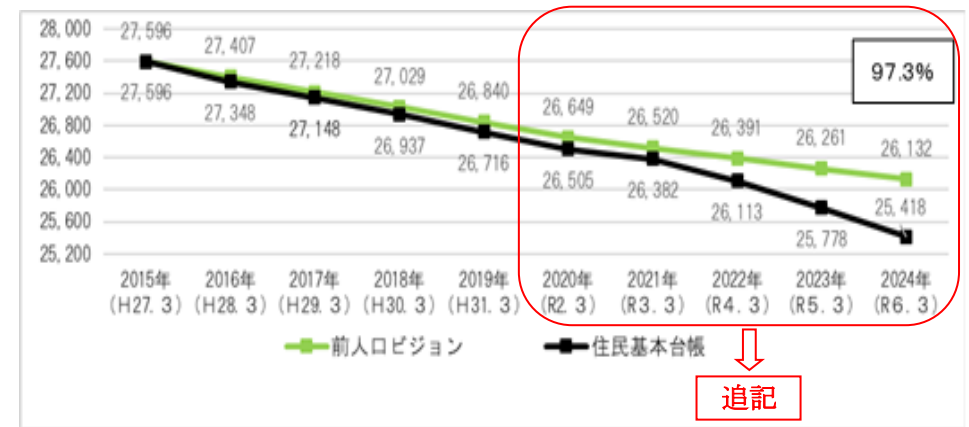


図2 策定時からの前人口ビジョン推計値と住民基本台帳人口との比較

3～5 （略）

＜2 ページ＞

6 人口ビジョンで扱う地域分類

(1) ～ (3) （略）

(4) 幕別札内農村地域

豊岡1～2、新和、西猿別、猿別、軍岡、南勢、大豊、明野北、明野南、新川、相川、相川西、相川南、相川北、糠内市街、五位、糠内第一、中糠内、西糠内、明倫、美川、中里、駒畠、古舞、途別、上稲志別、札内区、日新1～2、昭和、依田、西和、千住1～2、千住東、稲志別、新生、中稲志別

＜3ページ＞

7 人口の現状分析

（1）総人口及び年齢3区分別人口の推移

国勢調査人口における総人口は、2005（平成17）年をピークとして増加傾向にありましたが、2010（平成22）年以降は減少傾向にあります。

年少人口（0～14歳）は、1975（昭和55）年をピークに減少が続いています。生産年齢人口（15～64歳）は、2000（平成12）年まで増加が続いていましたが、その後は減少傾向にあります。

老年人口（65歳以上）は、死亡率の低下に伴う平均寿命の延伸などを背景に一貫して増加が続き、2000（平成12）年には年少人口を上回り、2015（平成27）年には年少人口の2倍以上となるなど少子高齢化が一段と進んでいます（図3）。

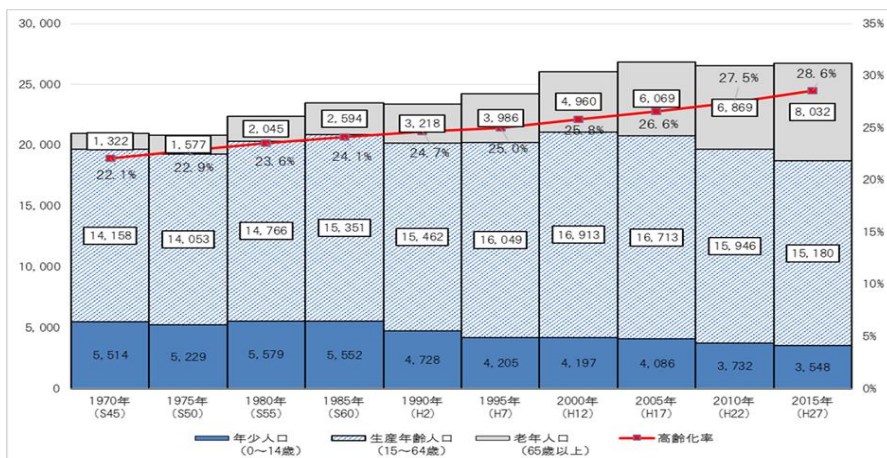


図3 総人口及び年齢3区分別人口の推移

*1 国勢調査（H17以前は幕別町と忠類村の人口数を合算）より作成

*2 年齢不詳の者がいるため、年少人口、生産年齢人口及び老年人口は、年齢不詳者を按分することで、その合計と総人口が一致するように調整しており、実際の数値とは一致しない場合があります。

＜3ページ＞

7 人口の現状分析

（1）総人口及び年齢3区分別人口の推移

国勢調査人口における総人口は、2005（平成17）年をピークとして増加傾向にありましたが、2010（平成22）年以降は減少傾向にあります。

年少人口（0～14歳）は、1975（昭和55）年をピークに減少が続いています。生産年齢人口（15～64歳）は、2000（平成12）年まで増加が続いていましたが、その後は減少傾向にあります。

老年人口（65歳以上）は、死亡率の低下に伴う平均寿命の延伸などを背景に一貫して増加が続き、2000（平成12）年には年少人口を上回り、2015（平成27）年には年少人口の2倍以上となるなど少子高齢化が一段と進んでいます（図3）。

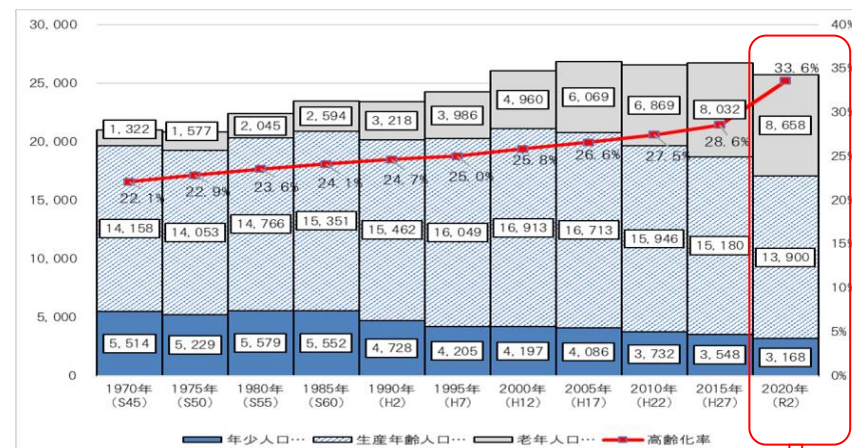


図3 総人口及び年齢3区分別人口の推移

*1 国勢調査（H17以前は幕別町と忠類村の人口数を合算）より作成

*2 年齢不詳の者がいるため、年少人口、生産年齢人口及び老年人口は、年齢不詳者を按分することで、その合計と総人口が一致するように調整しており、実際の数値とは一致しない場合があります。

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和２年３月改訂）

＜４ページ＞

一方、住民基本台帳人口における総人口の推移をみると、2009(平成21)年度から2013(平成25)年度にかけて年々上昇傾向にありましたが、2014(平成26)年度以降は減少傾向が続き、近年は毎年約200名の人口減となっています（図４）。

また、年齢３区分別人口推移の傾向は、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）とも減少傾向にある一方、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、2016(平成 28)年度には高齢化率が 30% を超えています（図５）。

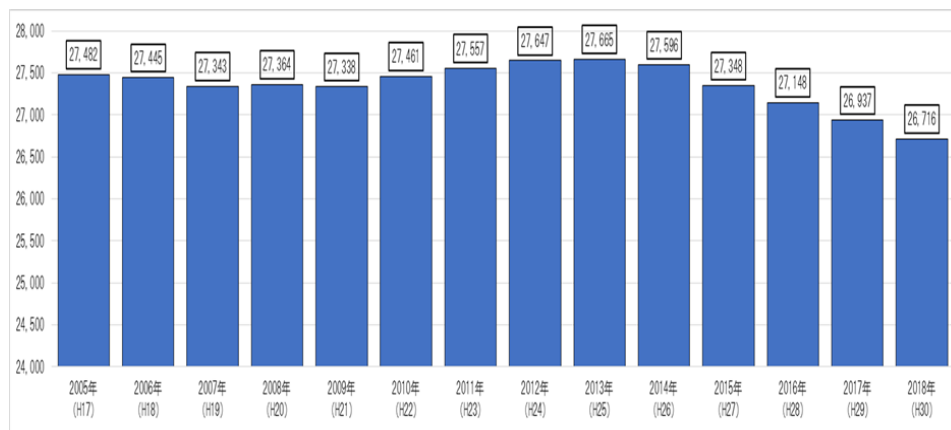


図４ 住民基本台帳における総人口の推移（各年度末時点）

＜新＞人口ビジョン（案）

＜４ページ＞

一方、住民基本台帳人口における総人口の推移をみると、2013(平成25)年度までは年々上昇傾向にありましたが、2014(平成26)年度以降は減少傾向が続いています（図４）。

また、年齢３区分別人口推移の傾向は、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）とも減少傾向にある一方、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、2016(平成28)年度には高齢化率が 30% を超えています（図５）。

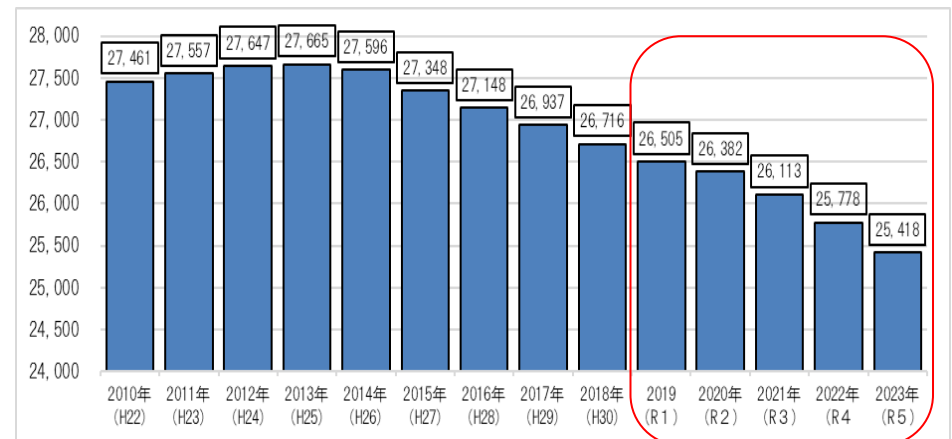


図４ 住民基本台帳における総人口の推移（各年度末時点）

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜4ページ＞

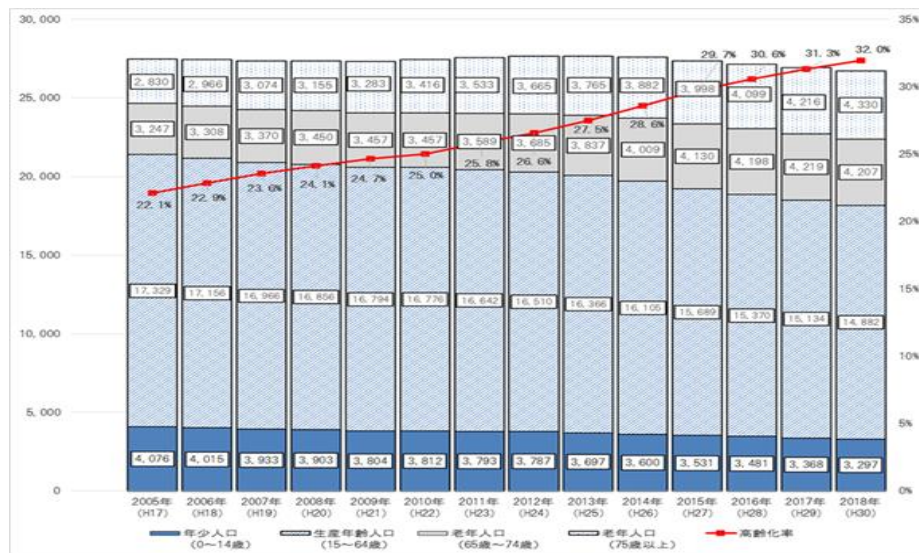
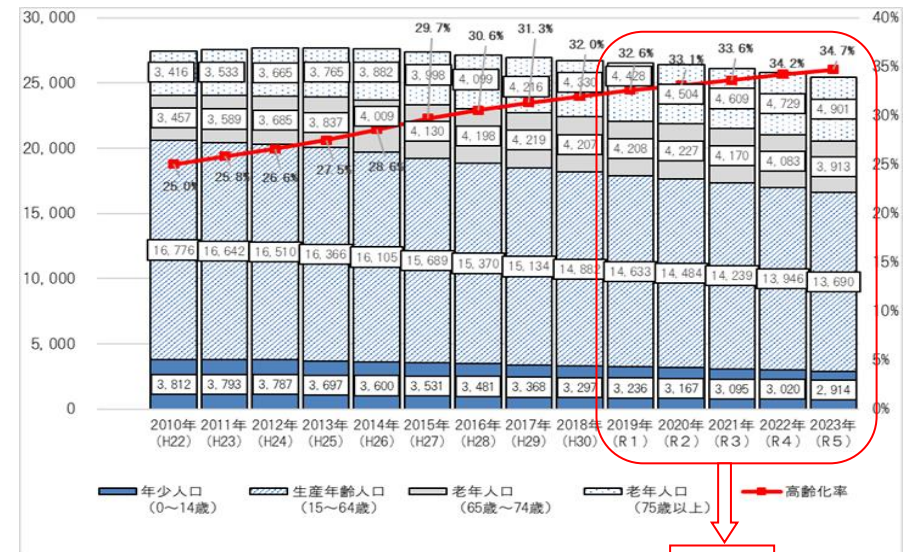


図5 住民基本台帳における年齢3区分別人口の推移（各年度末時点）

＜新＞人口ビジョン（案）

＜4ページ＞



追記

図5 住民基本台帳における年齢3区分別人口の推移（各年度末時点）

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜5 ページ＞
（2）（略）

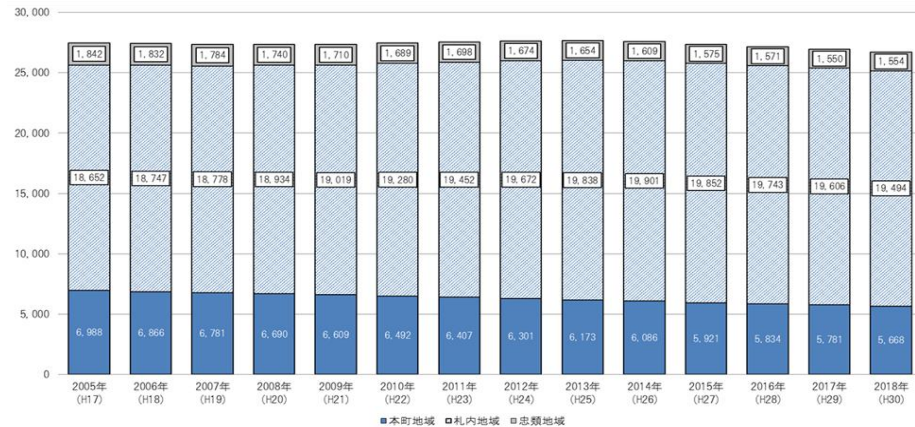


図6 住民基本台帳における地区別人口の推移（各年度末時点）

* 各地域には農村地域も含む

（3）自然増減（出生数・死亡数）の動向

出生数は、1985(昭和60)年代から1997(平成9)年にかけて減少傾向となりましたが、1998(平成10)年度に入り増加に転じた後、再び減少傾向が続いており、近年は年間170人前後で推移しています。一方、死亡数は増加傾向にあり、2005(平成17)年度以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています(図7)。

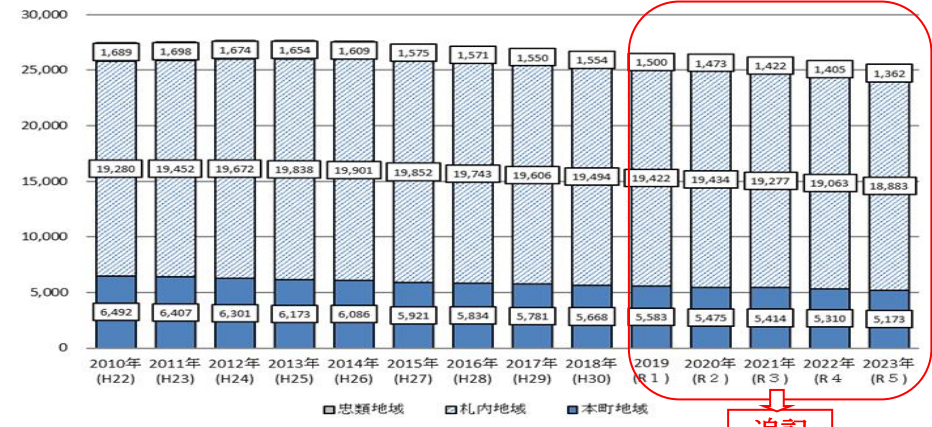
合計特殊出生率は、増減を繰り返しながら減少傾向がみられるものの、全国及び北海道の水準は上回っています(図8)。

母親の年齢階級別にみた出生数の推移は、母親の年齢が30歳代、40歳代以上は減少傾向が続いている一方、20歳代の出生数は増加傾向にあります(図9)。

0～4歳人口は、2000(平成12)年以降、減少に転じていますが、15～49歳

＜新＞人口ビジョン（案）

＜5 ページ＞
（2）（略）



追記

6 住民基本台帳における地区別人口の推移（各年度末時点）

* 各地域には農村地域も含む

（3）自然増減（出生数・死亡数）の動向

出生数は、1985(昭和60)年代から1997(平成9)年にかけて減少傾向となりましたが、1998(平成10)年度に入り増加に転じた後、再び減少傾向が続いており、近年は年間170人前後で推移しています。一方、死亡数は増加傾向にあり、2005(平成17)年度以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています(図7)。

合計特殊出生率は、増減を繰り返しながら減少傾向がみられるものの、全国及び北海道の水準は上回っています(図8)。

母親の年齢階級別にみた出生数の推移は、減少に転じていますが、各年代の割合は、増減を繰り返しつつ、概ね横ばい傾向にあります(図9)。

0～4歳人口は、2000(平成12)年以降、減少に転じていますが、15～49歳

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

の女性人口に対する0～4歳人口の割合である「子ども女性比」は、増減を繰り返しつつ、概ね横ばい傾向にあります（図10）。

＜6ページ＞

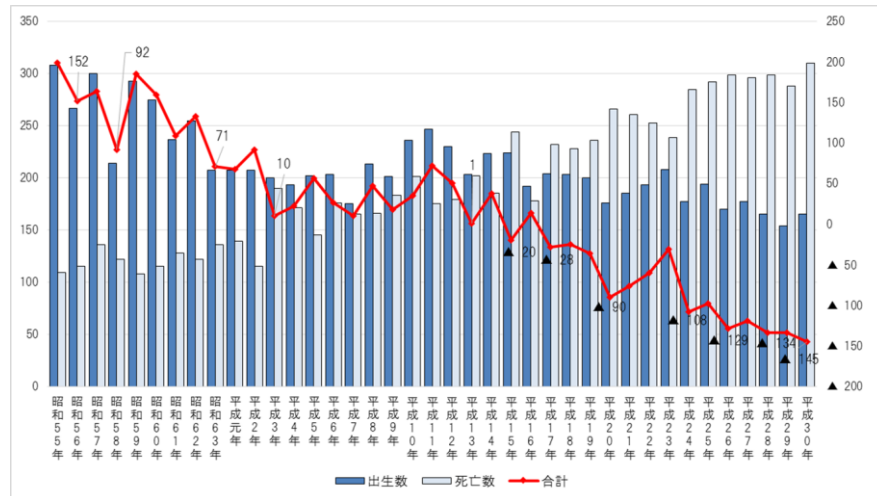


図7 自然増減（出生数・死亡数）推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜新＞人口ビジョン（案）

～49歳の女性人口に対する0～4歳人口の割合である「子ども女性比」は、増減を繰り返しつつ、概ね横ばい傾向にあります（図10）。

＜6ページ＞

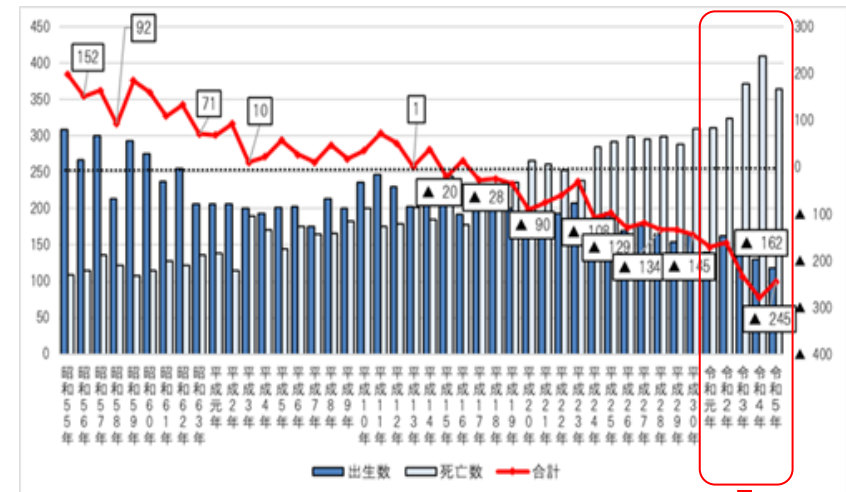


図7 自然増減（出生数・死亡数）推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜6 ページ＞

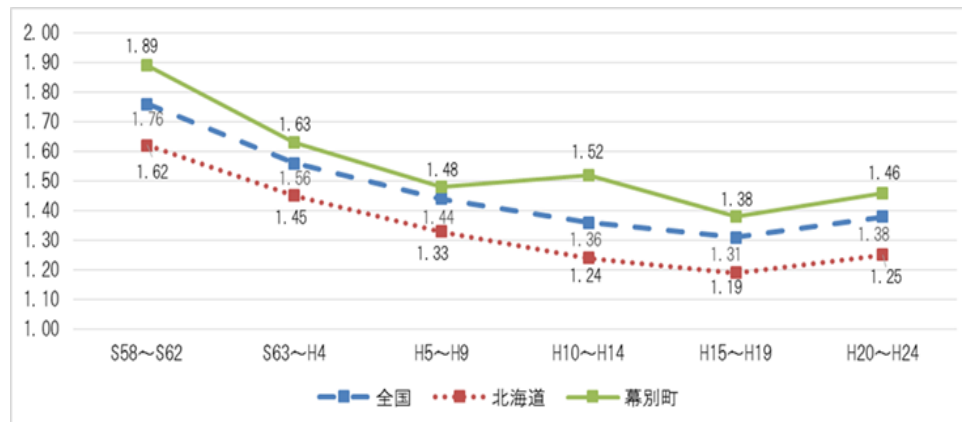


図8 合計特殊出生率推移

* 人口動態統計（5か年平均）より作成

＜7 ページ＞

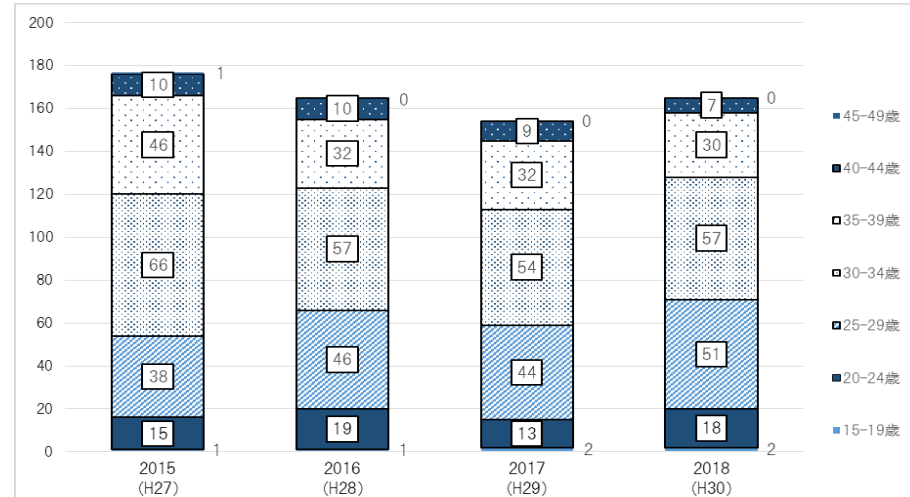


図9 母親の年齢階級別にみた出生数の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜新＞人口ビジョン（案）

＜6 ページ＞

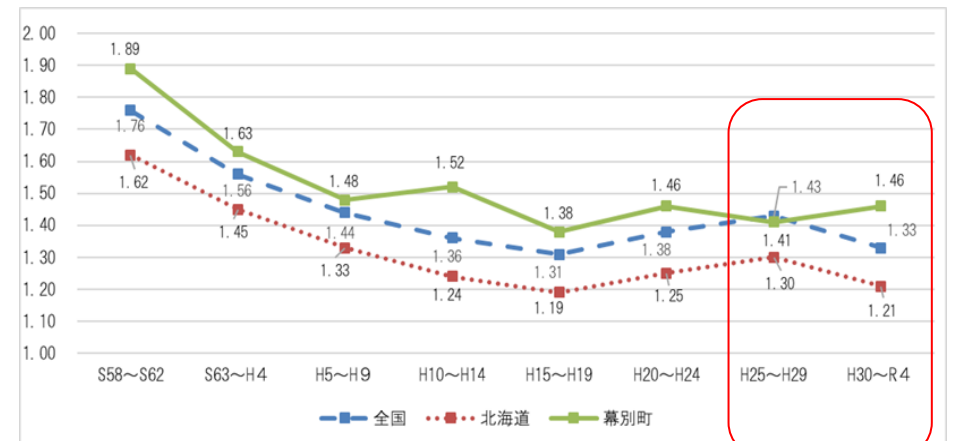


図8 合計特殊出生率推移

* 人口動態統計（5か年平均）より作成

追記

＜7 ページ＞

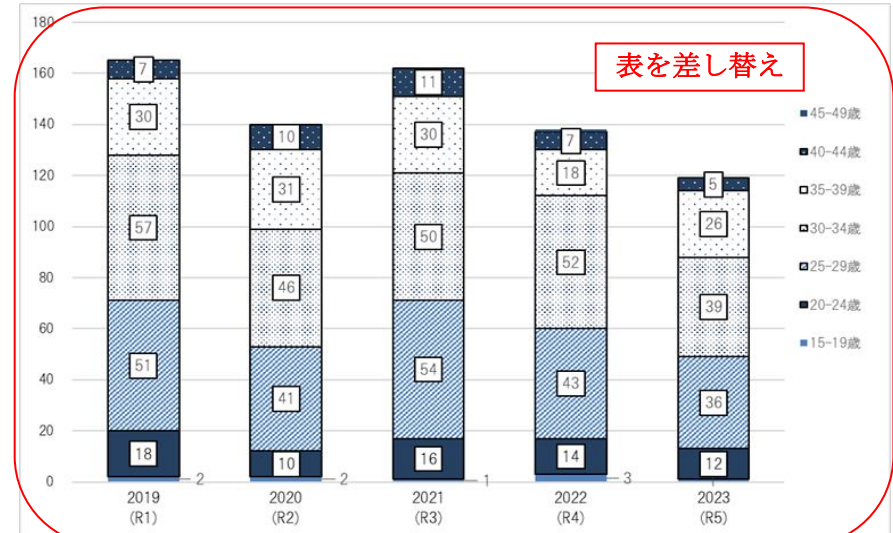


図9 母親の年齢階級別にみた出生数の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜7ページ＞

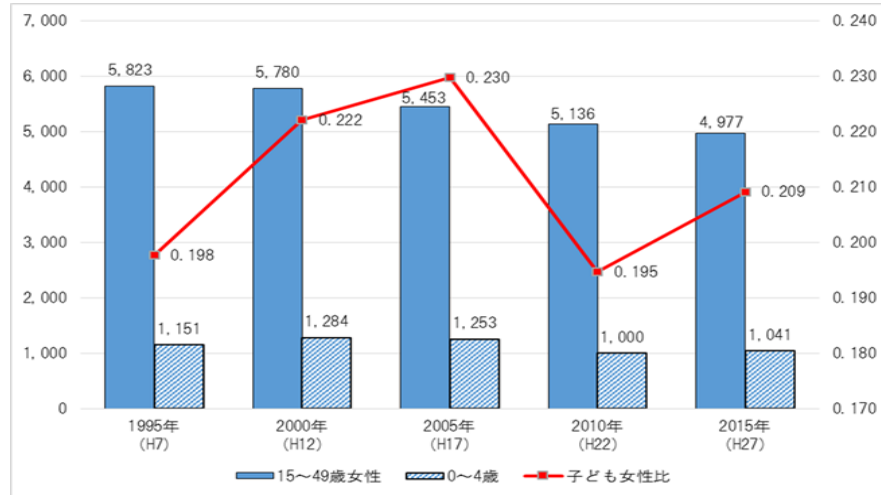


図 10 0～4歳人口と子ども女性比

* 国勢調査（H17 以前は幕別町と忠類村の人口数を合算）より作成

＜新＞人口ビジョン（案）

＜7ページ＞

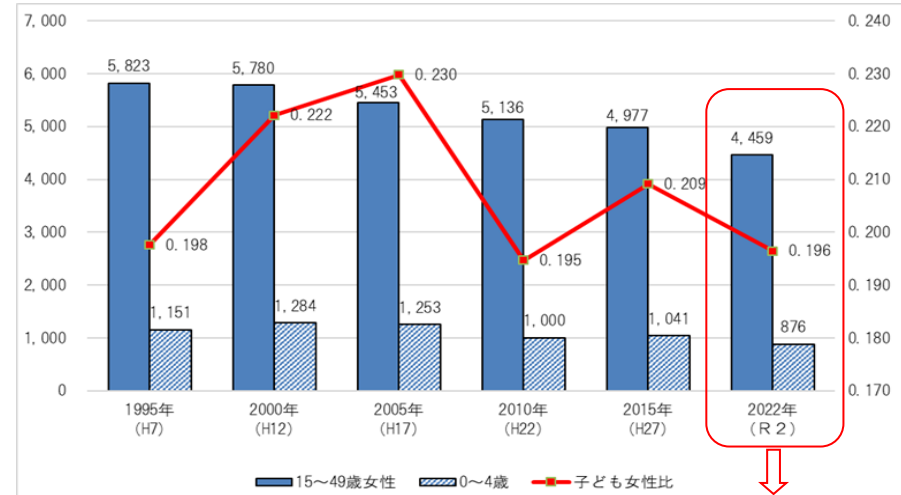


図 10 0～4歳人口と子ども女性比

* 国勢調査（H17 以前は幕別町と忠類村の人口数を合算）より作成

追記

＜8ページ＞

（４）社会増減（転入数・転出数）の動向

①（略）

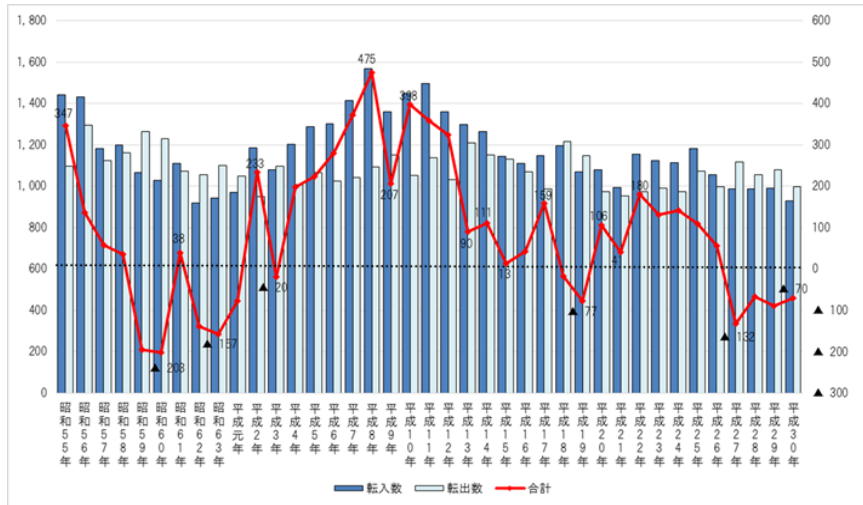


図 11 社会増減（転入数・転出数）の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜8ページ＞

② 年齢階級別の状況

2018(平成30)年度の転入数、転出数の動向をみると、転入数、転出数ともに20歳代が最も高く、次いで30歳代が高くなっています。また、転入と転出の差でみると、10～20歳代は合わせて約100人の社会減の状況であるのに対し、その他の世代では、40歳代を除き全ての世代で社会増となっています（図12）。

これは、町外の大学等への進学や就職を機とし転出数が多い一方、子育て世代や定年退職を迎えた世帯が町内へ転入しているケースが多いと推察されます。

＜8ページ＞

（４）社会増減（転入数・転出数）の動向

①（略）

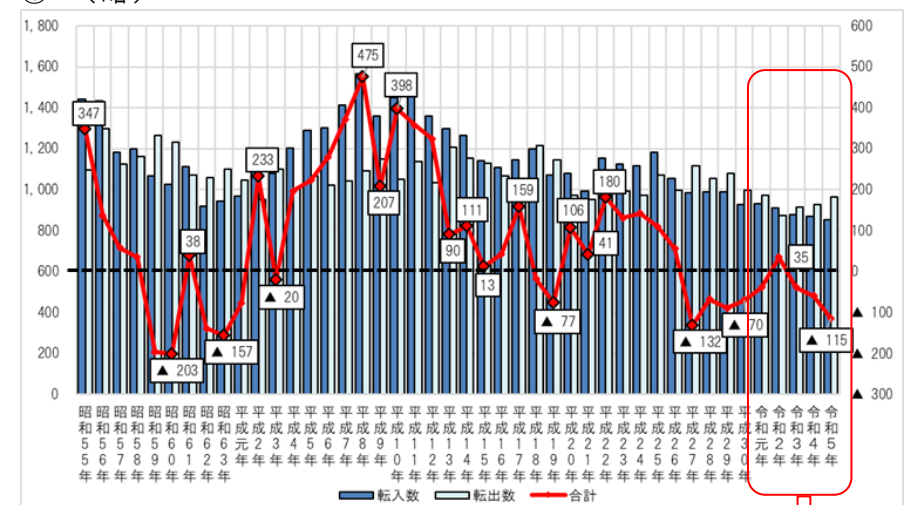


図 11 社会増減（転入数・転出数）の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

追記

＜8ページ＞

② 年齢階級別の状況

2023(令和5)年度の転入数、転出数の動向をみると、転入数、転出数ともに20歳代が最も高く、次いで30歳代が高くなっています。また、転入と転出の差でみると、10～20歳代は合わせて約150人、40～50歳代は合わせて約20人の社会減の状況であるのに対し、その他の世代では社会増となっています（図12）。

これは、町外の大学等への進学や就職を機とし転出数が多い一方、子育て世代や定年退職を迎えた世帯が町内へ転入しているケースが多いと推察されます。

<旧>現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

<9ページ>

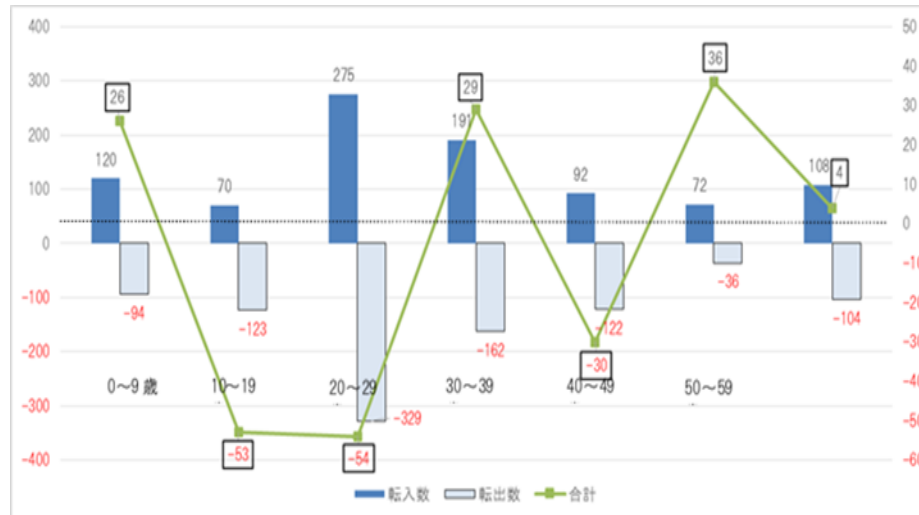


図 12 社会増減（転入数・転出数）の年齢階級別の状況（2018(平成 30)年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

③ （略）

<新>人口ビジョン（案）

<9ページ>

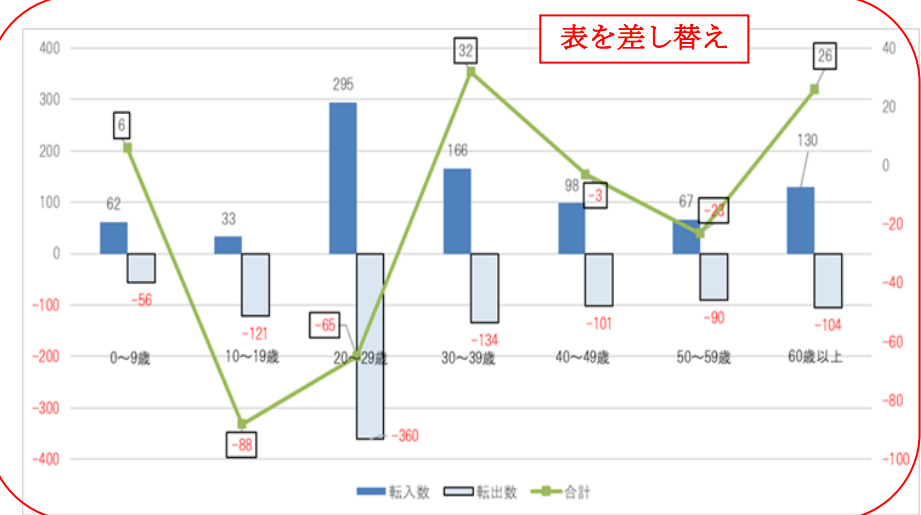


図 12 社会増減（転入数・転出数）の年齢階級別の状況（2023(令和5)年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

③ （略）

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜9ページ＞

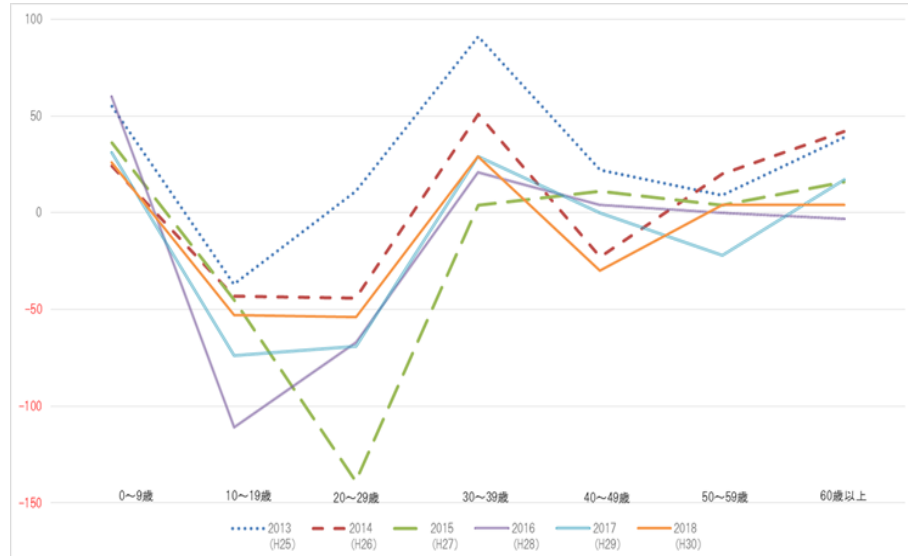


図 13 社会増減（転入数・転出数）の時系列の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜10ページ＞

④ 幕別町への主な住所地別転入数・転出数

2018(平成 30)年度末時点の幕別町への転入・転出の状況を主な住所地別にみると、帯広市、音更町、芽室町を除く十勝管内市町村及び東京都を除く道外その他の地域からは転入超過の状況となっています（図14）。

＜新＞人口ビジョン（案）

＜9ページ＞

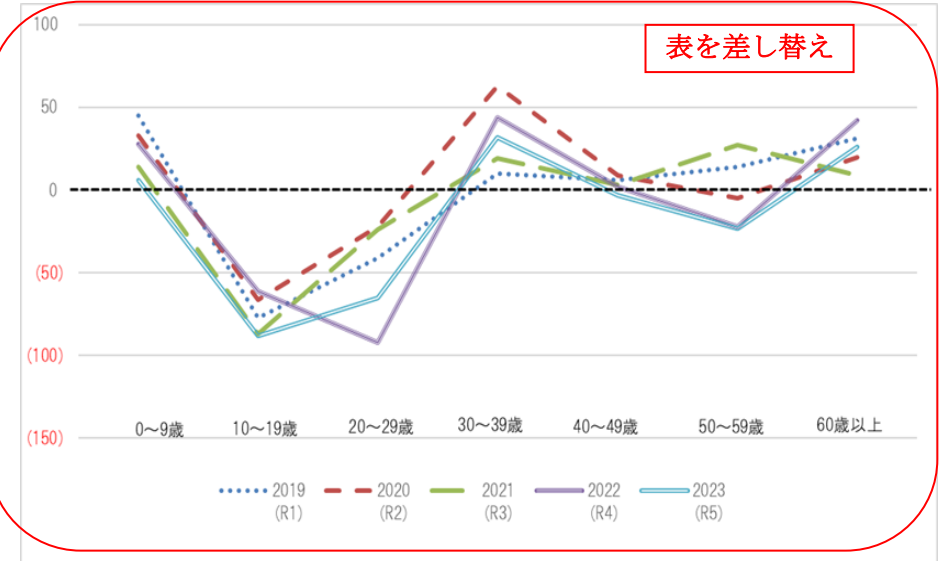


図 13 社会増減（転入数・転出数）の時系列の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜10ページ＞

④ 幕別町への主な住所地別転入数・転出数

2023(令和 5)年度末時点の幕別町への転入・転出の状況を主な住所地別にみると、帯広市と帯広市、音更町、芽室町を除く十勝管内市町村の地域からは転入超過の状況となっています（図14）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜10ページ＞

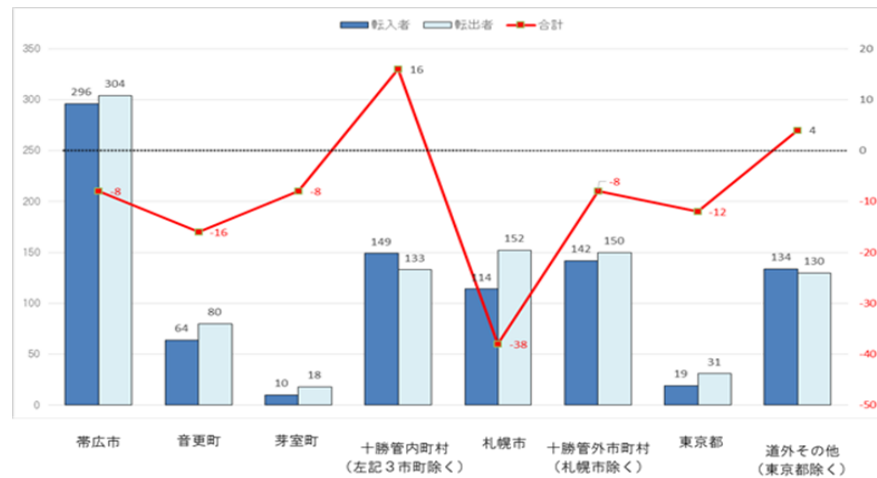


図 14 幕別町への主な住所地別転入者・転出者数 (2018(平成 30)年度末時点)

* 住民基本台帳より作成

＜新＞人口ビジョン（案）

＜10ページ＞

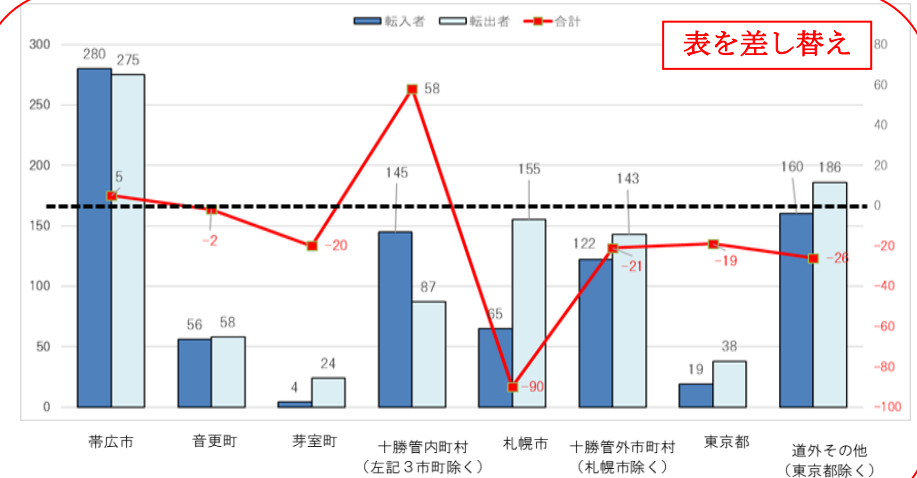


図 14 幕別町への主な住所地別転入者・転出者数 (2023(令和5)年度末時点)

* 住民基本台帳より作成

⑤ 幕別町内地域別の社会増減（転入数・転出数）の状況

平成30(2018)年度末時点の幕別町内地区別の社会増減の状況をみると、忠類地域では転入超過となっています(図15)。

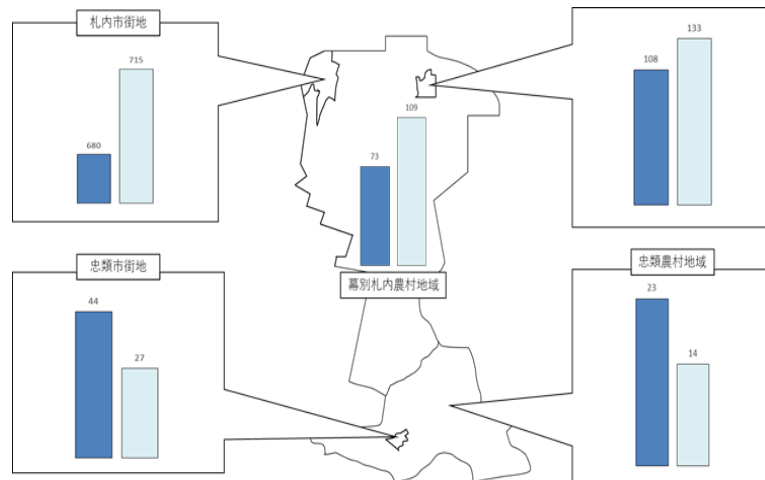


図 15 幕別町内地域別の社会増減（転入数・転出数）の状況（2018(平成30)年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

⑤ 幕別町内地域別の社会増減（転入数・転出数）の状況

令和5（2023）年度末時点の幕別町内地区別の社会増減の状況をみると、幕別町内全地域で転出超過となっています(図15)。

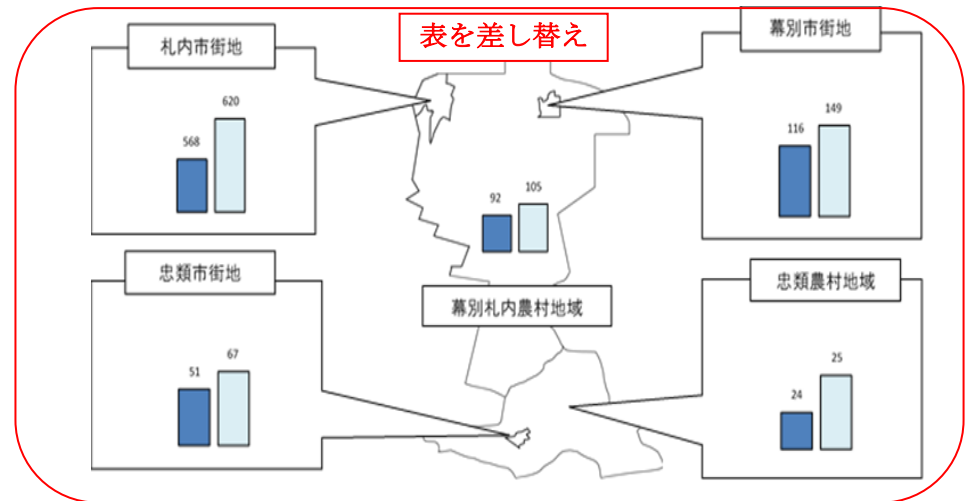


図 15 幕別町内地域別の社会増減（転入数・転出数）の状況（2023(令和5)年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜11ページ＞

⑥ 十勝管内市町村別の社会増減（転入数・転出数）の状況

2018(平成30)年12月末時点の十勝管内市町村別の社会増減の状況をみると、上士幌町及び豊頃町を除く市町村において、転出超過となっています（図16）。

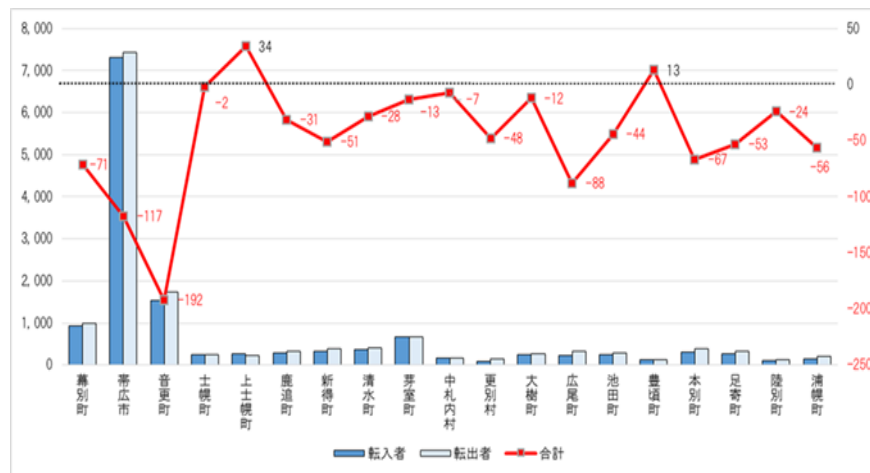


図 16 十勝管内市町村別の社会増減（転入数・転出数）の状況 （2018(平成30)年12月末時点）

* 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

⑦ 十勝管内市町村別の昼夜間人口及び人口比率の状況

2015(平成27)年時点の十勝管内市町村別の昼間人口（就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口）及び夜間人口（調査時に調査の地域に常住している人口）をみると、夜間人口100人当たりの昼間人口の割合である昼夜間人口比率は、士幌町が最も高く、幕別町は最も低い状況にあります（図17）。

＜11ページ＞

⑥ 十勝管内市町村別の社会増減（転入数・転出数）の状況

2023(令和5)年12月末時点の十勝管内市町村別の社会増減の状況をみると、音更町、士幌町、新得町、芽室町及び豊頃町を除く市町村において、転出超過となっています（図16）。

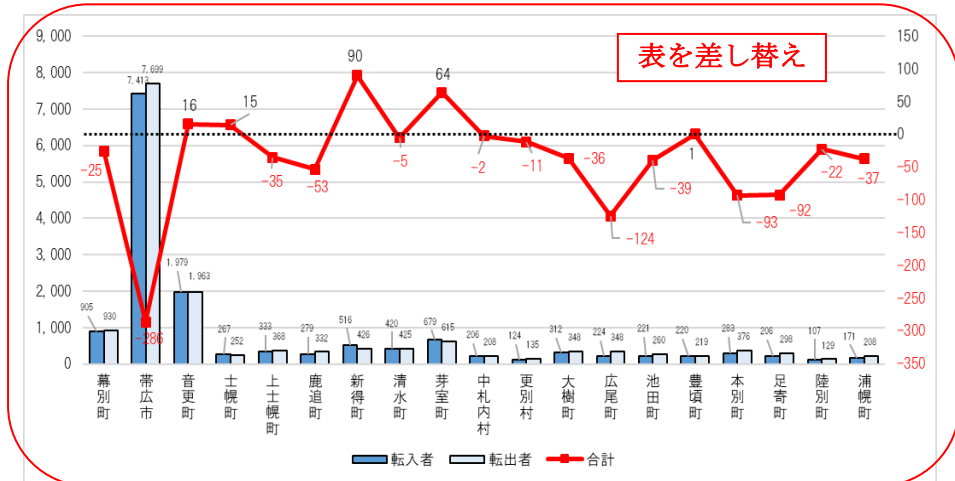


図 16 十勝管内市町村別の社会増減（転入数・転出数）の状況 （2023(令和5)年12月末時点）

* 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

⑦ 十勝管内市町村別の昼夜間人口及び人口比率の状況

2020(令和2)年時点の十勝管内市町村別の昼間人口（就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口）及び夜間人口（調査時に調査の地域に常住している人口）をみると、夜間人口100人当たりの昼間人口の割合である昼夜間人口比率は、士幌町が最も高く、幕別町は最も低い状況にあります（図17）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜11ページ＞

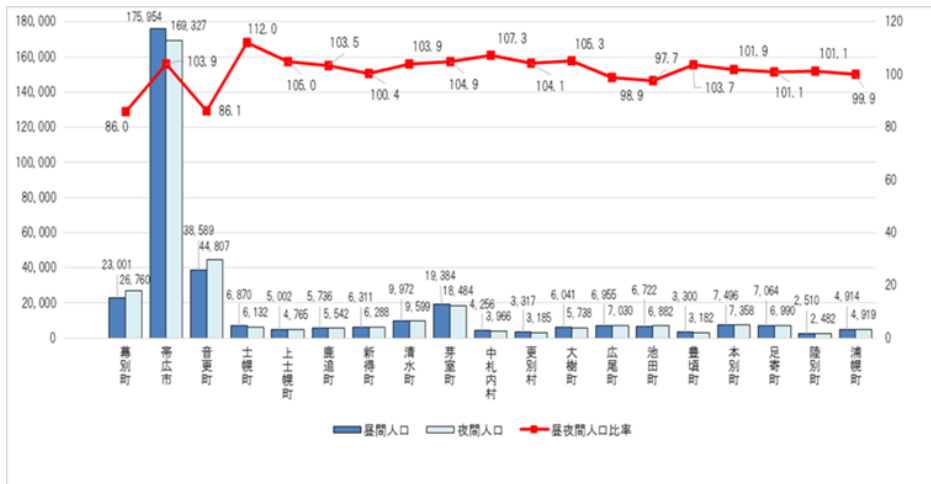


図 17 十勝管内市町村別の昼夜間人口及び人口比率（2015(平成 27 年時点)）

＜12ページ＞

（５）外国人人口の動向

外国人人口は、2016(平成28)年度まではほぼ同数で推移していましたが、2017(平成29)年度以降急激な上昇局面を迎え、2018(平成30)年度には100人を超えています（図18）。

国籍別にみると、近年はベトナムの増加が著しく、人口数でも1位となっています（図19）。

＜新＞人口ビジョン（案）

＜11ページ＞

表を差し替え

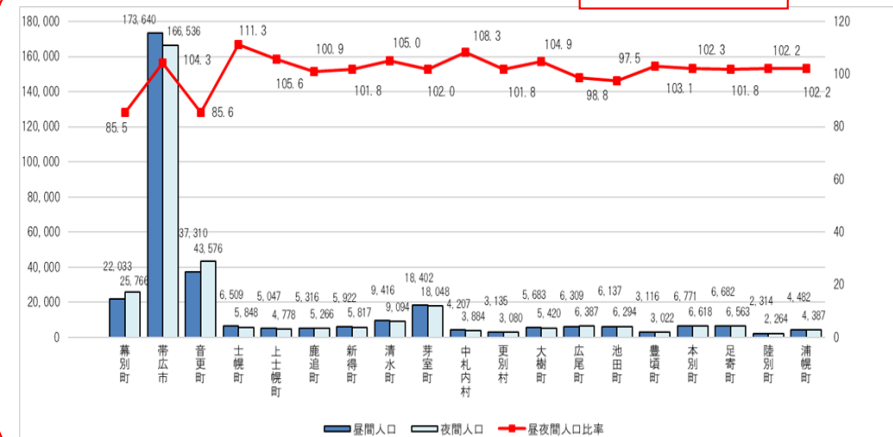


図 17 十勝管内市町村別の昼夜間人口及び人口比率（2020(令和 2)年時点）

＜12ページ＞

（５）外国人人口の動向

外国人人口は、2017(平成29)年度以降急激な上昇局面を迎え、2018(平成30)年度には100人、2022(令和4)年度には200人を超えています（図18）。

国籍別にみると、近年はベトナムの増加が著しく、人口数でも1位となっています（図19）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜12ページ＞

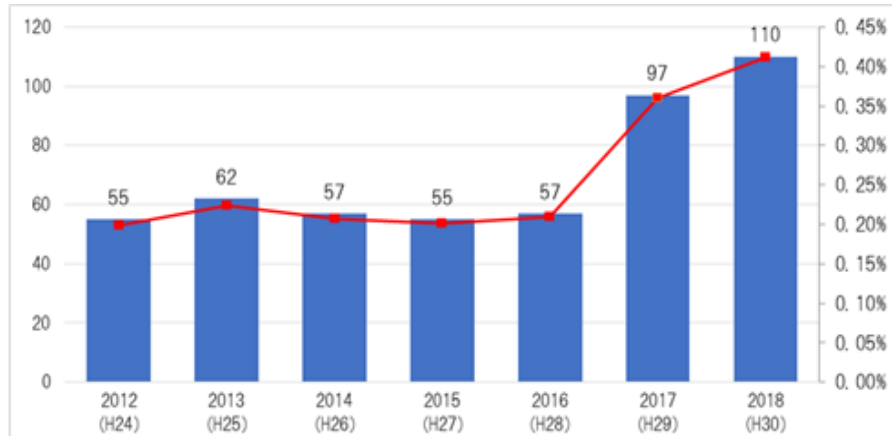


図 18 外国人人口と総人口に占める割合の推移（住民基本台帳より作成各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

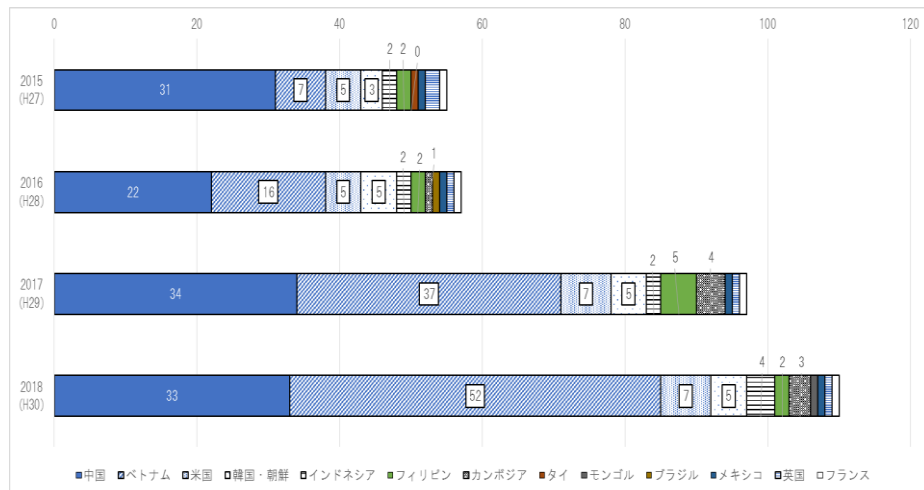


図 19 主な国籍別の外国人人口の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜新＞人口ビジョン（案）

＜12ページ＞

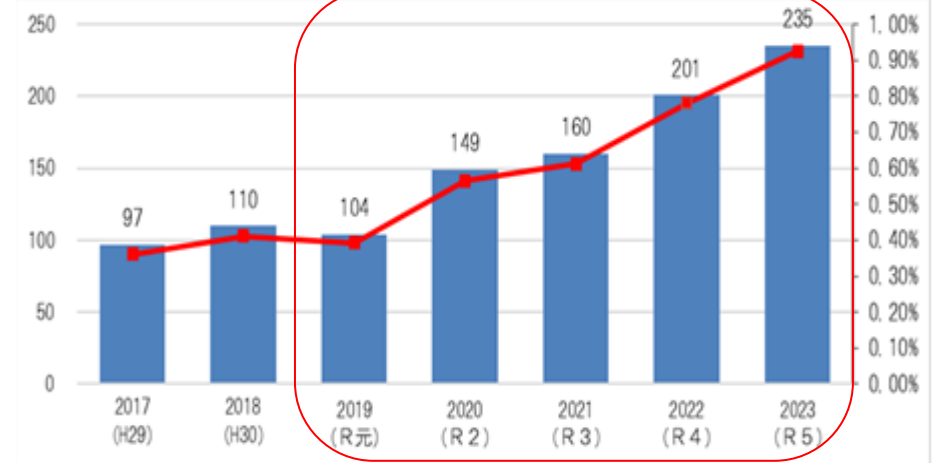


図 18 外国人人口と総人口に占める割合の推移（住民基本台帳より作成各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

追記



表を差し替え

図 19 主な国籍別の外国人人口の推移（各年度末時点）

* 住民基本台帳より作成

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜13ページ＞

（6）その他

① 平均寿命の推移

男女別の平均寿命の動向をみると、幕別町は男女とも伸びており、全国、北海道の平均を上回る傾向が続いていますが、2015（平成27）年の女性の平均寿命は全国平均を下回っています。（図20、21）。

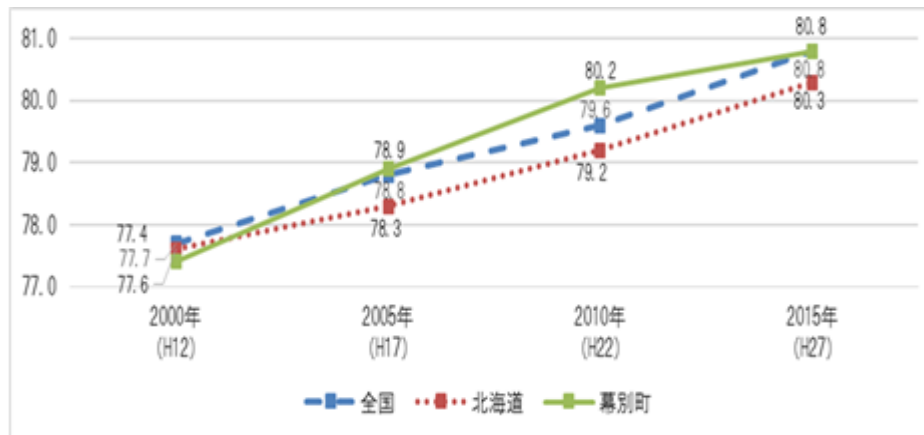


図 20 男性の平均寿命の状況

＜新＞人口ビジョン（案）

＜13ページ＞

（6）その他

① 平均寿命の推移

男女別の平均寿命の動向をみると、幕別町は男女とも伸びており、全国、北海道の平均を上回る傾向が続いていますが、2015（平成27）年と2020（令和2）年の女性の平均寿命は全国平均を下回っています。（図20、21）。

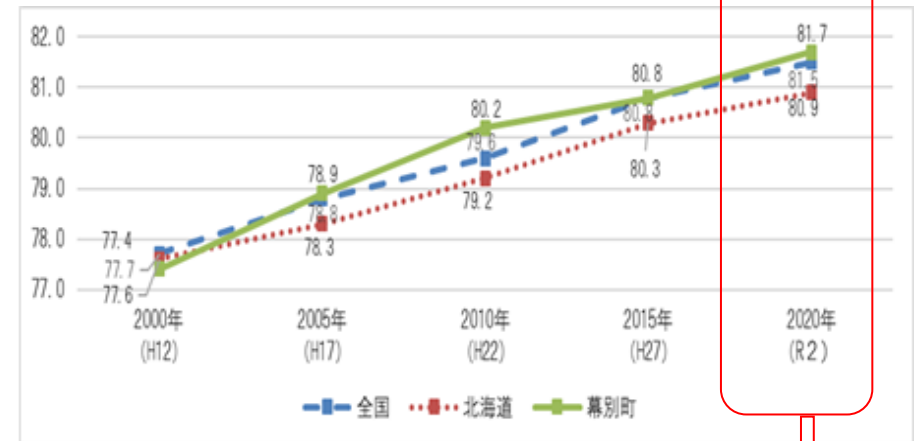


図 20 男性の平均寿命の状況

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

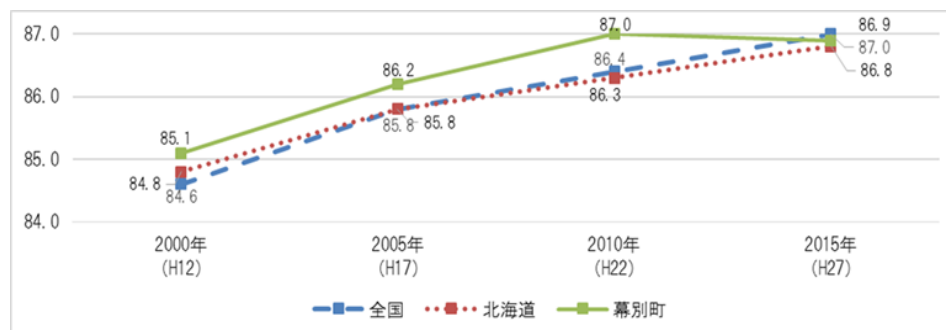


図 21 女性の平均寿命の状況

- *1 市区町村別生命表より作成
- *2 2000年 (H12)は幕別町と忠類村の平均値

＜14ページ＞

② （略）

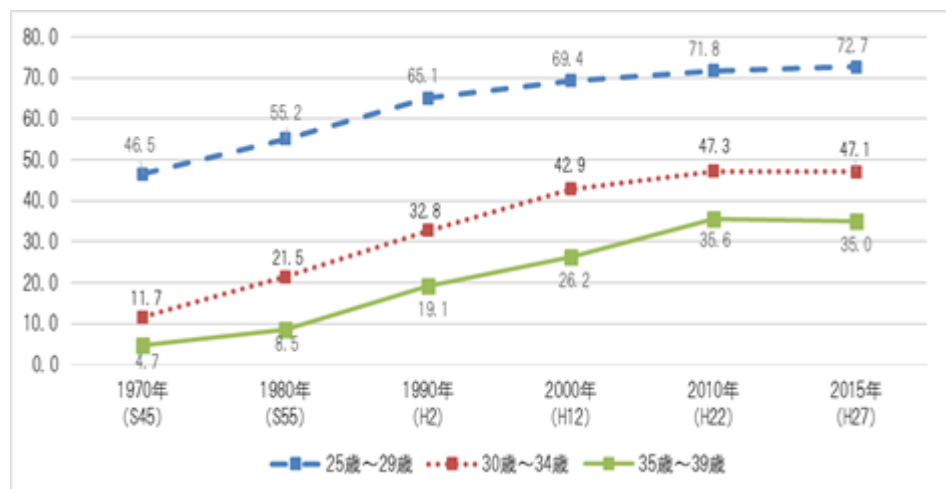


図 22 25歳から39歳までの男性の5歳階級別未婚の割合の推移

＜新＞人口ビジョン（案）

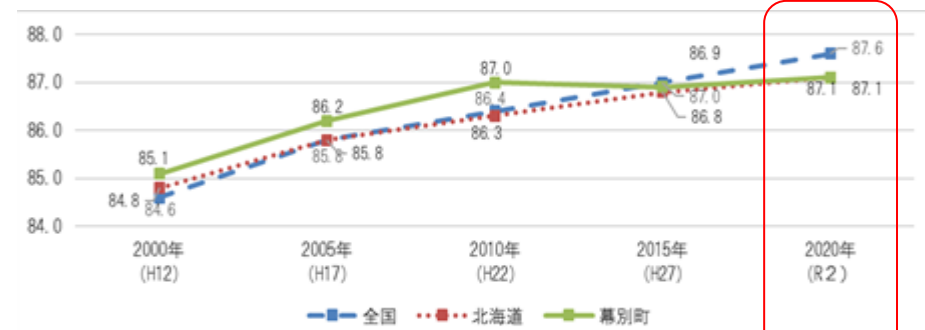


図 21 女性の平均寿命の状況

- *1 市区町村別生命表より作成
- *2 2000年 (H12)は幕別町と忠類村の平均値

＜14ページ＞

② （略）

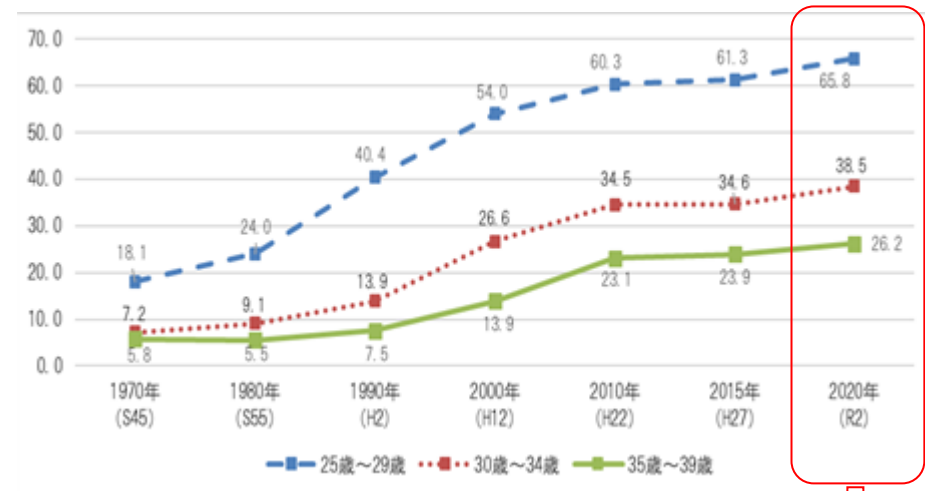


図 22 25歳から39歳までの男性の5歳階級別未婚の割合の推移

追記

追記

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

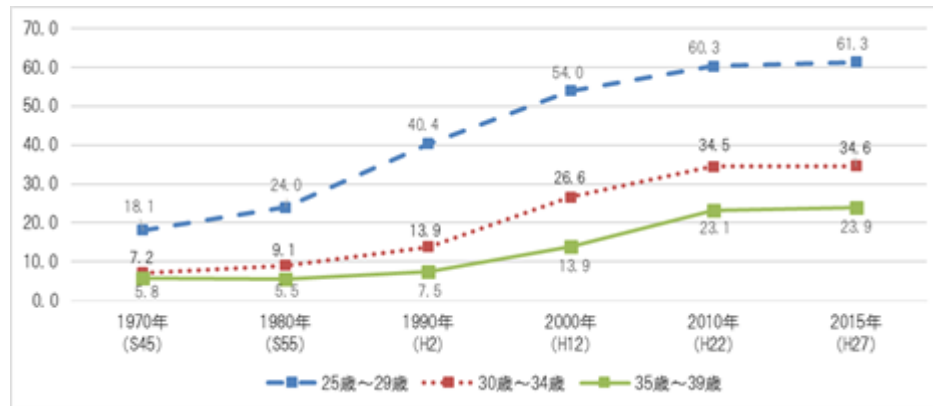


図 23 25 歳から 39 歳までの女性の 5 歳階級別未婚の割合の推移

* 国勢調査より作成

＜15ページ＞

③ 幕別町内の男女別及び産業別就業者数

2015(平成 27) 年の幕別町の男女別及び産業別就業者数をみると、農業、製造業、卸売業等及び医療、福祉に従事する方が多い傾向となっています。また、男性は農業、建設業、製造業、卸売業等に集中し、女性は農業、卸売業等、医療・福祉に集中しています（図24）。

＜新＞人口ビジョン（案）

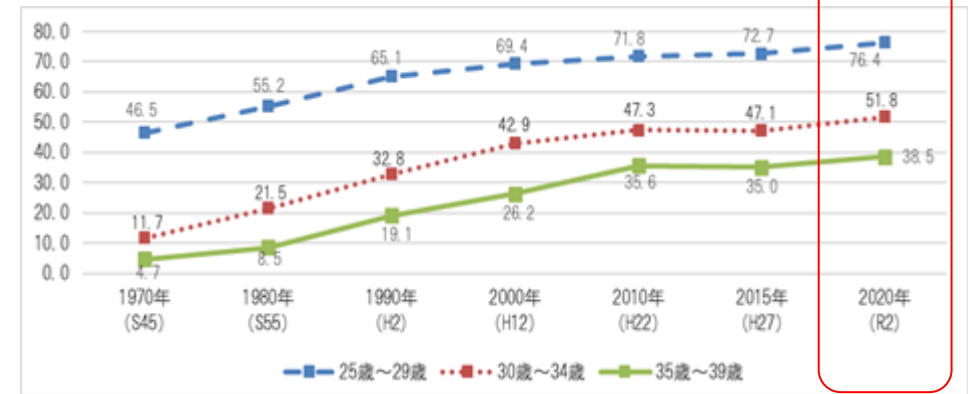


図 23 25 歳から39歳までの女性の 5 歳階級別未婚の割合の推移

* 国勢調査より作成

追記

＜15ページ＞

③ 幕別町内の男女別及び産業別就業者数

2020(令和 2) 年の幕別町の男女別及び産業別就業者数をみると、農業、製造業、卸売業等及び医療、福祉に従事する方が多い傾向となっています。また、男性は農業、建設業、製造業、卸売業等に集中し、女性は農業、卸売業等、医療・福祉に集中しています（図24）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

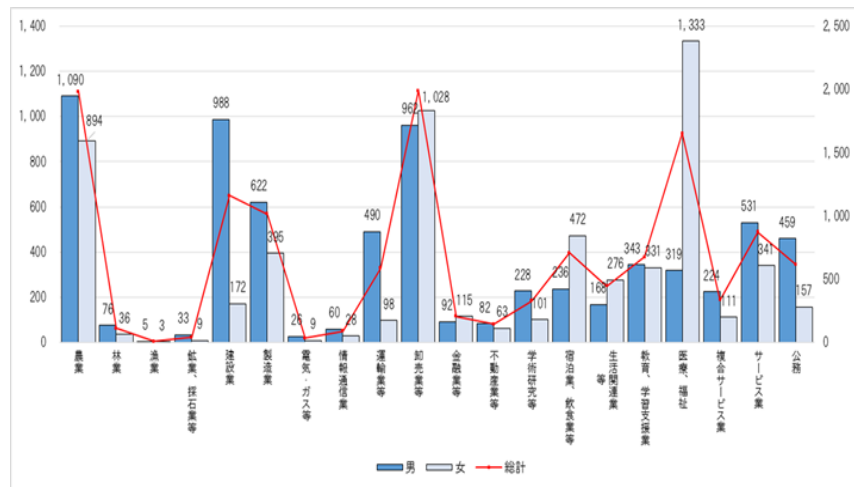


図 24 幕別町内の男女別及び産業別就業者数（平成 27 年時点）

* 国勢調査より作成

④ 十勝管内市町村別の男女別就業者数

2015(平成 27) 年の十勝管内市町村別の男女別就業者数をみると、いずれの市町村において男性が女性を上回っています。また、15 歳以上の人口に占める就業者割合は、更別村が最も高い状況となっています（図25）。

＜新＞人口ビジョン（案）

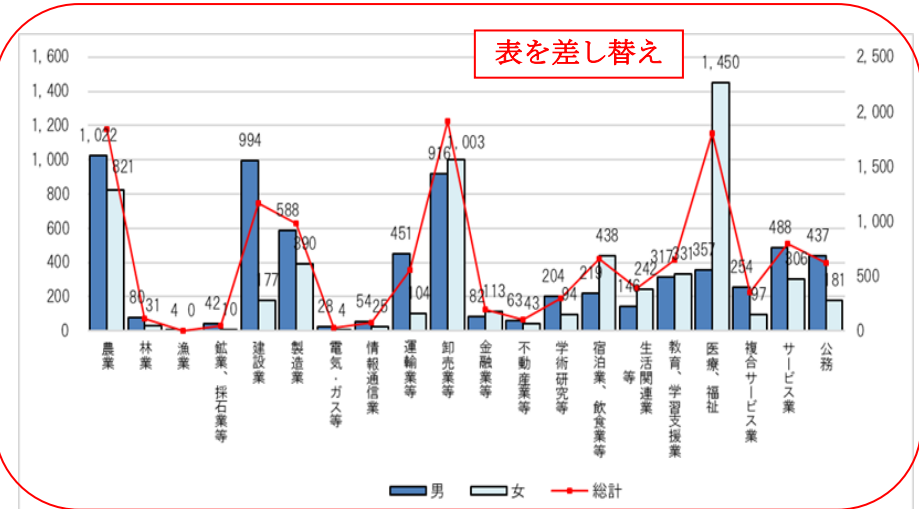


図24 幕別町内の男女別及び産業別就業者数（令和2年時点）

* 国勢調査より作成

④ 十勝管内市町村別の男女別就業者数

2020(令和2) 年の十勝管内市町村別の男女別就業者数をみると、いずれの市町村において男性が女性を上回っています。また、15 歳以上の人口に占める就業者割合は、更別村が最も高い状況となっています（図25）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）

＜15ページ＞

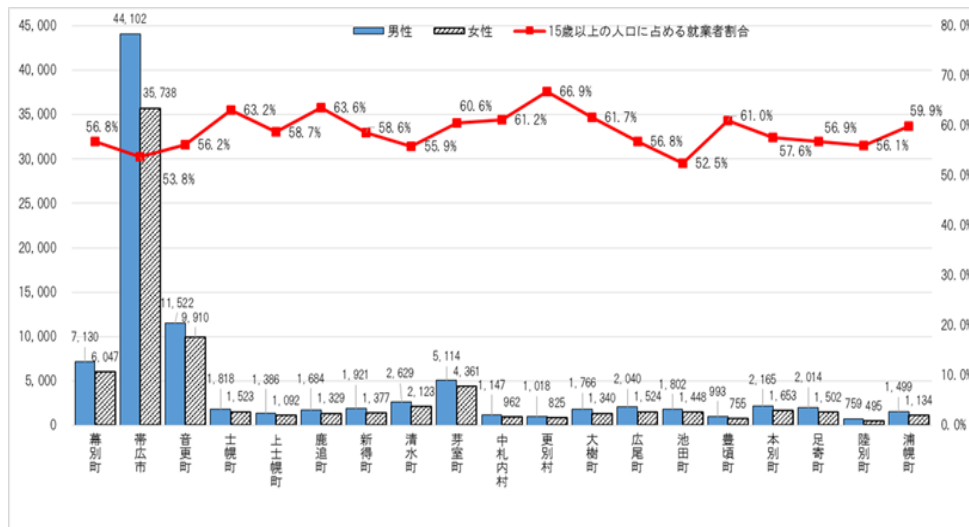


図 25 十勝管内市町村別の男女別就業者数（平成 27 年時点）

＜16ページ＞

8 人口の将来展望

（1）現状・課題と今後の方向性

これまで分析した人口動向の特徴等をもとに、「総人口」、「自然増減」、「社会増減」、「年齢3階層別人口」の4つの観点から現状と課題をあげ、今後の方向性を次のとおりまとめました。

＜新＞人口ビジョン（案）

＜15ページ＞

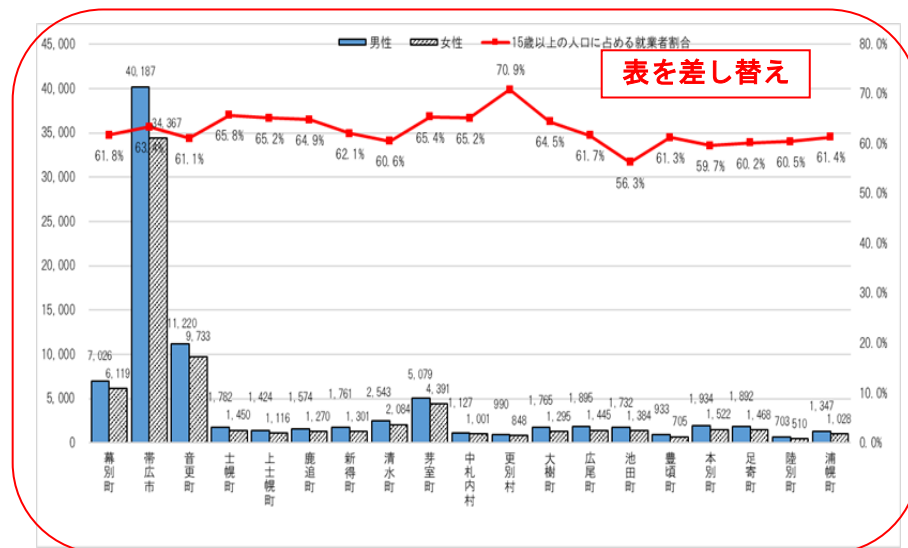


図 25 十勝管内市町村別の男女別就業者数（令和2年時点）

＜16ページ＞

8 人口の将来展望

（1）現状・課題と今後の方向性

これまで分析した人口動向の特徴等をもとに、「総人口」、「自然増減」、「社会増減」、「年齢3階層別人口」の4つの観点から現状と課題をあげ、今後の方向性を次のとおりまとめました。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和２年３月改訂）			＜新＞人口ビジョン（案）		
＜16ページ＞			＜16ページ＞		
項目	現状・課題	今後の方向性	項目	現状・課題	今後の方向性
総人口	近年は近隣市町村も含め人口減少傾向にあり、長期的にもこの傾向は続くものと考えられます。	今後、地域の活力を維持するため、十勝管外あるいは道外からの移住・定住者を増やすなど、できる限り人口総数を維持できるよう、施策に取り組む必要があります。	総人口	近年は近隣市町村も含め人口減少傾向にあり、長期的にもこの傾向は続くものと考えられます。	今後、地域の活力を維持するため、十勝管外あるいは道外からの移住・定住者を増やすなど、できる限り人口総数を維持できるよう、施策に取り組む必要があります。
自然増減	町における出生数は 170人前後で推移し、 0～4歳人口は減少傾向にあります。特に30歳～40歳代以上の出生数が減少傾向にあることなどを踏まえると、出産・子育ての支援が課題になると考えられます。	今後、人口の自然減や年少人口、生産年齢人口の減少を抑制するため、結婚や出産を希望する方が安心して、出産・子育てできる環境を整備することが必要です。	自然増減	町における出生数は、0～4歳人口は減少傾向にあります。特に30歳～40歳代以上の出生数が減少傾向にあることなどを踏まえると、出産・子育ての支援が課題になると考えられます。	今後、人口の自然減や年少人口、生産年齢人口の減少を抑制するため、結婚や出産を希望する方が安心して、出産・子育てできる環境を整備することが必要です。
社会増減	大学や就職を機に転出する10～20歳の若年層を中心として、転出超過が続いています。一方、10歳未満、30歳代は転入超過の状況となっており、子育て世代が町内へ転入しているものと考えられます。 住所別では、転出入数とのいずれも帯広市が多く、また、社会減となっている他、札幌市及び東京都など都市部への流出が多くなっています。 また、近年では、外国人人口の増加が著しく、国の政策等も踏まえると今後も増加傾向は続くものと考えられ、対応が課題となります。	子育て世代を中心に、近隣自治体の中で人々に選ばれるまちとして、幕別町の魅力を高めるとともに、進学を機に転出した若い世代が、再び地域に戻り、住み続けられる環境を整備することが必要です。 また、急増する外国人が地域で安心して暮らせるよう、多文化共生社会を構築していく必要があります。	社会増減	大学や就職を機に転出する10～20歳の若年層を中心として、転出超過が続いています。一方、10歳未満、30歳代は転入超過の状況となっており、子育て世代が町内へ転入しているものと考えられます。 住所別では、転出入数とのいずれも帯広市が多く、また、社会減となっている他、札幌市及び東京都など都市部への流出が多くなっています。 また、近年では、外国人人口の増加が著しく、国の政策等も踏まえると今後も増加傾向は続くものと考えられ、対応が課題となります。	子育て世代を中心に、近隣自治体の中で人々に選ばれるまちとして、幕別町の魅力を高めるとともに、進学を機に転出した若い世代が、再び地域に戻り、住み続けられる環境を整備することが必要です。 また、急増する外国人が地域で安心して暮らせるよう、多文化共生社会を構築していく必要があります。
年齢３階層別人口	年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向にある一方、老年人口は増加の一途をたっており、少子高齢化社会は着実に進行しています。社会保障費のさらなる増加、地域経済や様々な活動の担い手の減少など、地域に及ぼす影響への対応が課題になると考えられます。	生産年齢人口の移住・定住化や年少人口の増加など、バランスの取れた年齢構成とするとともに、少子高齢化の地域への影響ができる限り緩やかになるよう、施策に取り組む必要があります。	年齢３階層別人口	年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向にある一方、老年人口は増加の一途をたっており、少子高齢化社会は着実に進行しています。社会保障費のさらなる増加、地域経済や様々な活動の担い手の減少など、地域に及ぼす影響への対応が課題になると考えられます。	生産年齢人口の移住・定住化や年少人口の増加など、バランスの取れた年齢構成とするとともに、少子高齢化の地域への影響ができる限り緩やかになるよう、施策に取り組む必要があります。

<旧>現行人口ビジョン（令和2年3月改訂）	<新>人口ビジョン（案）
<17ページ> （２）将来の人口推計 ① 推計方法 基本的な考え方は、前人口ビジョンと同様に 2015(平成 27)年 3 月の住民基本台帳人口を基準として、社人研推計や町における住民基本台帳人口の近年の自然増減・社会増減の傾向等を踏まえつつ、2015(平成 27)年に実施した住民アンケートで示された町全体の合計特殊出生率 1.55 を基本として、本町における人口を推計することとしました。 <u>このため、幕別町の人口ビジョンは前人口ビジョンから変更せず、現行のとおりとします。</u> <u>② 推計結果</u> 将来の総人口の推計結果をみると、2045(令和 27)年には、総人口が約 2 割減少し、2060(令和 42)年には 20,000 人を下回る見込みとなりました（図 26）。 <u>年齢 3 区分別人口をみると、年少人口及び生産年齢人口とも減少傾向が続き、生産年齢人口は2060(令和 42)年までに約 5,500 人減少する見込みとなります。一方、老年人口は 2025(令和 7)年まで増加し続け、高齢化率は 2045(令和 27)年に 34.1%まで達する見込みです（図 27）。</u>	<17ページ> （２）将来の人口推計 ① 推計方法 基本的な考え方は、前人口ビジョンと同様に 2015(平成 27)年 3 月の住民基本台帳人口を基準として、社人研推計や町における住民基本台帳人口の近年の自然増減・社会増減の傾向等を踏まえつつ、2015(平成 27)年に実施した住民アンケートで示された町全体の合計特殊出生率 1.55 を基本として、本町における人口を推計することとしました。 <u>今回、住民基本台帳ベースで2060(令和 42)年まで推計し、前人口ビジョンと比較すると、19,457人に対し18,910人で差が547人と大きな乖離がないこと、また、町が現在取り組んでいる少子化対策や出産・子育てに対するさまざまな施策及び、子育て世帯の困りごとに適切に対応できる相談体制の充実など今後とも実現に向けて推進していくことから、幕別町の人口ビジョンは前人口ビジョンから変更せず、現行のとおりとします。</u> <u>② 将来の総人口の推計結果</u> 将来の総人口の推計結果をみると、2045(令和27)年には、総人口が約 2 割減少し、2060(令和42)年には20,000人を下回る見込みとなりました（図26、<u>27</u>）。

＜旧＞現行人口ビジョン（令和２年３月改訂）

＜17ページ＞

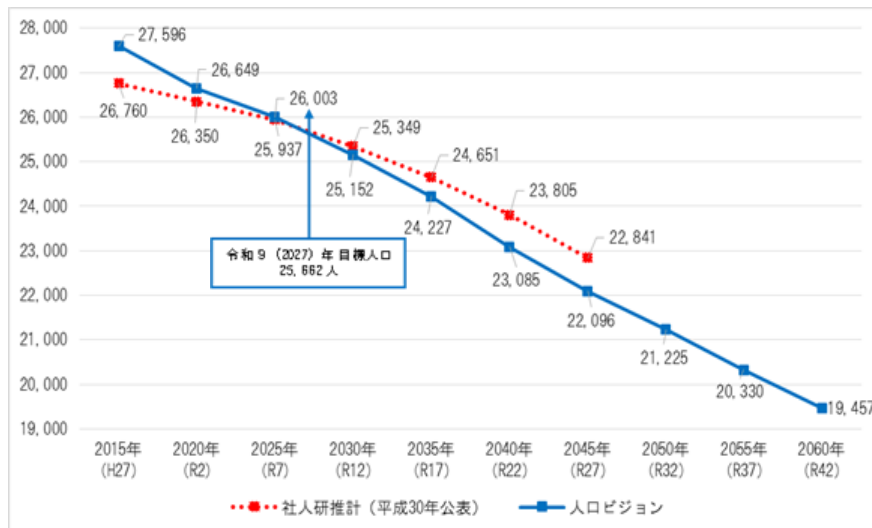


図 26 将来の総人口の長期的見通し

* 国立社会保障・人口問題研究所は 2015 年から 204 年までの 30 年間の将来推計を公表

＜新＞人口ビジョン（案）

＜17ページ＞

表を新たに追加

	住民基本台帳町推計		人口ビジョン	
	推計人口	5年前との比較	推計人口	5年前との比較
2020年(R2)	26,505		26,649	
2025年(R7)	25,210	-1,295	26,003	-646
2030年(R12)	24,195	-1,015	25,152	-851
2035年(R17)	23,222	-973	24,227	-925
2040年(R22)	22,287	-935	23,085	-1,142
2045年(R27)	21,390	-897	22,096	-989
2050年(R32)	20,529	-861	21,225	-871
2055年(R37)	19,703	-826	20,330	-895
2060年(R42)	18,910	-793	19,457	-873

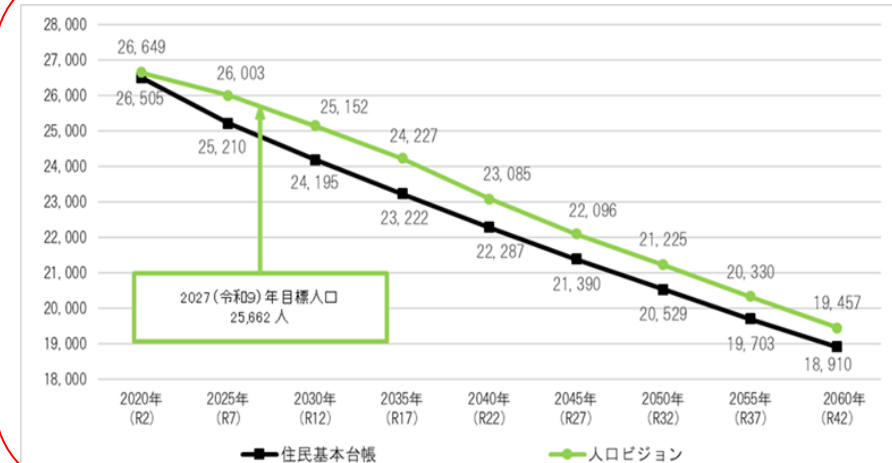


図 26 将来の総人口の長期的見通し

* 国立社会保障・人口問題研究所(令和５年公表)は 2050 年までの将来推計を公表

社人研推計を H30 から R5 公表値に更新、住民基本台帳を基にした町の推計値を追記

<18ページ>

表を新たに追加

<18ページ>

	町推計	地区別推計				
		札内市街地	幕別市街地	忠類市街地	幕別札内農村地域	忠類農村地域
2015年(H27)	27,596	18,576	4,120	1,138	3,291	471
2020年(R2)	26,649	18,375	3,833	1,050	2,947	444
2025年(R7)	26,003	18,176	3,616	1,009	2,777	425
2030年(R12)	25,152	17,809	3,375	956	2615	397
2035年(R17)	24,227	17,357	3,120	902	2469	379
2040年(R22)	23,085	16,742	2,837	842	2308	356
2045年(R27)	22,096	16,192	2,601	796	2174	333
2050年(R32)	21,225	15,692	2,415	758	2038	322
2055年(R37)	20,330	15,102	2,273	718	1930	307
2060年(R42)	19,457	14,458	2,153	684	1869	293

図27 地区別の将来の総人口の長期的見通し

③ 年齢3区分別人口の推計結果

年齢3区分別人口をみると、年少人口及び生産年齢人口とも減少傾向が続き、生産年齢人口は2060(令和42)年までに約 5,500 人減少する見込みとなります。一方、老年人口は2025(令和7)年まで増加し続け、高齢化率は2045(令和27)年に 34.1%まで達する見込みです(図28、29)

表を新たに追加

<19ページ>

	町推計	地区別推計				
		札内市街地	幕別市街地	忠類市街地	幕別札内農村地域	忠類農村地域
2015年(H27)	28.6	24.0	38.4	35.3	39.2	33.6
2020年(R2)	29.9	26.2	40.6	34.1	36.8	35.8
2025年(R7)	31.0	27.4	42.3	35.3	38.1	34.8
2030年(R12)	31.9	28.7	42.2	35.6	38.8	34.8
2035年(R17)	32.3	30.0	40.7	34.9	37.0	33.5
2040年(R22)	33.3	31.8	39.7	35.3	35.1	32.9
2045年(R27)	34.1	33.4	38.0	36.9	34.0	32.4
2050年(R32)	34.0	33.7	35.7	37.3	32.8	34.8
2055年(R37)	32.9	32.6	34.9	34.7	31.6	34.9
2060年(R42)	32.1	31.7	34.8	32.8	31.5	34.1

図29 地区別の将来の高齢化率長期的見通し

